

「肺がん外科治療のこれから ～高齢化時代をむかえて～」



肺癌は男性で癌の死因1位、女性では結腸癌に次ぎ2位である。肺癌のステージ別の5年生存率はステージIII以上で50%を切る。肺がんのステージ別の治療方法はステージIIまでは手術単独のことが多く、ステージIII以上になると、放射線化学療法、化学療法単独の割合が増えている。手術方法として、以前は後側方切開で肋骨を一本取って開胸し手術をしていたが術後の痛みもひどかった。現在は術前検査として動態レントゲンを撮像し肺の動きや癒着あるなしの評価しながら手術方法の選択をアプローチし胸腔鏡補助下に小開胸で手術し傷も小さいため痛みも少なく侵襲も少ない。更にダビンチなどロボット手術も導入され、肺がん治療に期待する。